



第149期 年度報告書

(平成24年4月1日～平成25年3月31日) 証券コード: 7731

株式会社 **ニコン**



取締役社長兼社長執行役員

木村 真琴

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社グループ第149期(平成24年4月1日～平成25年3月31日)の事業の概況並びに連結決算についてご報告申し上げます。

当期の概況

当期の世界経済は米国では回復の基調が見られましたが、債務危機の影響により欧州経済が低迷し、アジアやその他新興国も成長が鈍化しました。また、わが国経済は、第4四半期には景気回復への期待が高まったものの、世界経済低迷の影響を受け、通期では厳しい状況にありました。

事業別では、精機事業及びインストルメンツ事業においては、設備投資の冷え込みにより市場が縮小しました。映像事業においては、レンズ交換式デジタルカメラ市場は第3四半期半ばから市場環境が急速に悪化しました。また、コンパクトデジタルカメラ市場は引き続き縮小しました。

こうした状況の下、当社グループは、事業拡大と収益性向上のため、競争力のある新製品の市場投入に注力するとともに、生産・販売拠点の拡充、生産リードタイムの短縮、コスト削減に努めました。また、健康・医療分野の事業化に向けて経営資源を投入するなど新規事業領域の開拓も積極的に推し進めました。

さらに、開発設計のプロセスや管理方法の見直しを行

うとともに、グローバルに活躍できる優秀な人材の確保や育成に努めました。

これらの結果、当社グループの連結業績は、売上高は過去最高の1兆104億93百万円、前期比918億42百万円(10.0%)の増加となりましたが、市況悪化の影響を受け、営業利益は510億1百万円、前期比290億79百万円(36.3%)の減少、経常利益は483億44百万円、前期比410億39百万円(45.9%)の減少、当期純利益は424億59百万円、前期比168億46百万円(28.4%)の減少となりました。

次期の見通し

当社グループの事業分野に関しては、精機事業では、半導体関連分野の設備投資は期後半には回復が見込まれますが、引き続き厳しい状況が予想されます。液晶関連分野においては中小型液晶ディスプレイ用の装置を中心として市況の回復が見込まれます。映像事業は、コンパクトデジタルカメラの市場は縮小するものの、レンズ交換式

デジタルカメラ市場は成長が見込まれます。インストルメンツ事業はバイオサイエンス関連市況及び産業機器関連市況ともに厳しい状況が続くことが予想されます。

このような状況の下、当社グループは、既存事業を強化するため、生産リードタイムの短縮、コスト削減の推進及び事業プロセス全体の最適化などによる構造改革に取り組みとともに、健康・医療分野をはじめ、新規領域での事業化のための検討、研究及び開発を加速させることにより、事業ポートフォリオを再構築して産業構造の変化に対応した持続的成長を実現してまいります。

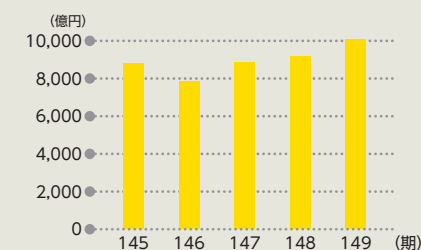
さらに、CSRを常に意識した事業活動のグローバル展開、優秀な人材の確保・育成・活用、リスク管理体制の整備などに引き続き取り組みます。

これらの施策を通じて、常に新たな価値を提供し、成長し続けることができる二コングループを目指してまいります。

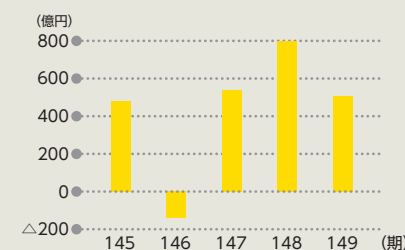
株主の皆様におかれましては、なにとぞ倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年6月

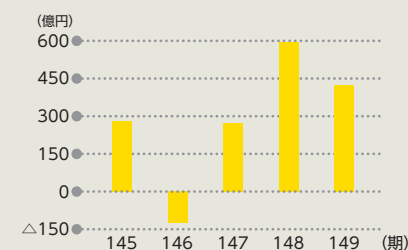
売上高



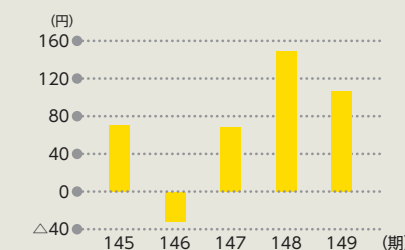
営業利益



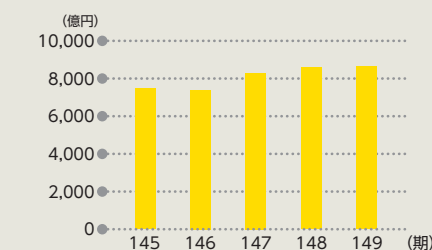
当期純利益



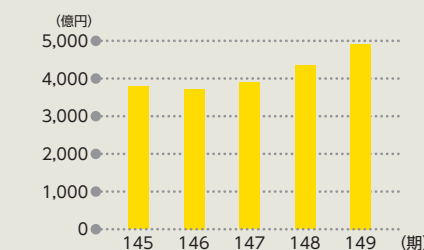
1株当たり当期純利益



総資産



純資産





ニコングループは、本年5月に新たな中期経営計画を発表いたしました。
 創立100周年に向けて、「常に新たな価値を提供し成長し続けるニコングループ」となるために、
 CSRを常に意識しながら「連結売上高1兆3,000億円、営業利益1,700億円」という
 平成27年度経営数値目標の達成にグループ一丸となって挑戦してまいります。

経営環境

半導体

デバイスは緩やかな成長
 半導体メーカーは投資抑制
 が継続

自動車

中期的に成長継続
 大型耐久消費財の主役

液晶パネル

中小型パネルは今後も数量拡大
 大型パネルは緩やかな成長

医療

中期的に成長
 幹細胞関連ビジネスは急拡大し従来
 と異なるビジネスモデルに発展

スマートフォン

低価格機が伸長
 コンパクトデジタルカメラ
 市場への影響

3カンパニーの事業環境

- 精機事業**
 - 半導体分野は平成25年度後半から回復
 - 液晶分野は平成25年度は中小型用中心に堅調、大型用の回復は平成26年以降
- 映像事業**
 - レンズ交換式カメラ市場は成長を維持
 - コンパクトカメラ市場は成熟、先進国は頭打ち、新興国は成長の余地
- インストルメンツ事業**
 - バイオはライブセルイメージング分野、産業機器は非接触三次元測定機分野が成長
 - アジア市場の拡大継続

グループが目指す姿

常に新たな価値を提供し成長し続ける
 ニコングループ

ニコンブランドを一層 拡がりのあるものとする	環境変化に柔軟かつ スピード感を持って対応できる 強靱な企業体質を実現
既存事業のリーディング ポジションを強化	新規事業育成を加速し 健康・医療分野の「分析・診断」 を重点領域として取り組む

CSRの重要性を認識し、社会の持続的発展に貢献

経営数値目標(全社)

	平成24年度(実績)	平成25年度	平成27年度
売上高	10,104億円	11,100億円	13,000億円
営業利益 売上高比	510億円 5.0%	850億円 7.7%	1,700億円 13.1%
当期純利益 売上高比	424億円 4.2%	650億円 5.9%	1,100億円 8.5%
為替の前提	USD 83円 EUR 107円	USD 95円 EUR 125円	USD 95円 EUR 125円

*本経営数値目標は、直近における市場予測等の情報及び為替相場などの前提に基づき作成したものであり、実際の実績は、それらを含めてさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

事業方針

精機事業

- リードタイム短縮・コストダウンによる収益力強化
- 半導体露光装置：性能向上、新規顧客の開拓による液浸露光装置のシェア拡大
- 液晶露光装置：新高精細装置の投入による高シェア維持

映像事業

- 技術力とマーケティング力で明確に差別化された商品の継続的投入
- 新興国でのブランド確立とリーディングポジション獲得
- 平成27年度営業利益率15%の実現

インストルメンツ事業

- 事業拡大による黒字化の実現
- 新興国市場への注力
- バイオ：生物顕微鏡市場でリーディングポジション獲得
- 産業機器：非接触測定機市場でリーディングポジション獲得

新規事業の育成

「健康・医療分野」を新規事業のターゲットとし、中でも「分析・診断」を重点領域としました。適切な治療や創薬支援に役立てるため、遺伝子から細胞レベルの画像分析・診断を行う機器及びシステムの開発等の基礎開発に入っており、今後、事業体制の整備を進めてまいります。

研究開発費500億円／3年を投資



設備投資・研究開発計画

平成25年度～平成27年度の累計

既存事業の能力強化・合理化・省力化、新たな事業展開に必須の設備投資を行う。研究開発費は売上高比7%水準を維持。

設備投資

総額 1,500億円

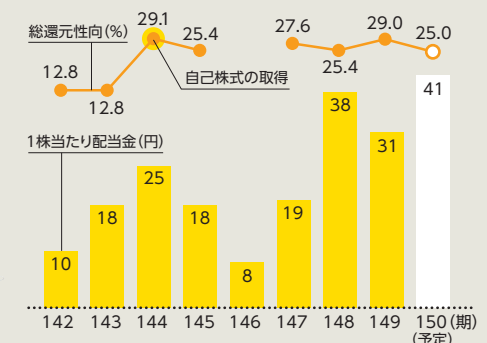
研究開発費

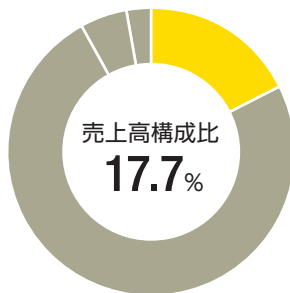
総額 2,500億円



1株当たり配当金と総還元性向

総還元性向25%以上を目標とする





精機事業

パソコン、携帯電話をはじめとする各種情報機器へ搭載される半導体の生産に欠かせない半導体露光装置事業と、薄型テレビやスマートフォンなどに使用される液晶パネルや有機ELパネルの生産を支える液晶露光装置事業から成り、光利用技術及び精密技術を核とした最先端の商品・サービスを提供しています。

当期の概況

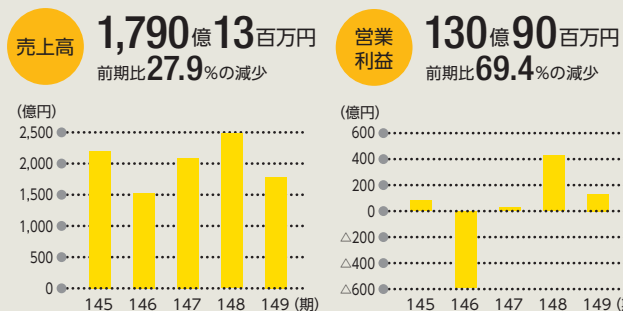
当事業関連市況は、半導体・液晶関連ともに、メーカー各社の設備投資が冷え込み市場が縮小しました。

このような状況の下、半導体露光装置分野では、ダブルパターンング対応の超高精度・超高スループットを実現したArF液浸スキャナー「NSR-S621D」を中心に拡販に努めるとともに、精度をさらに向上させた新製品「NSR-S622D」を発表しました。また、450ミリウェハ対応のArF液浸スキャナー（プロトタイプ）を世界で初めて受注しました。

液晶露光装置分野では、スマートフォン・タブレット型端末などの量産に最適な高精細・中小型液晶ディスプレイ用の装置需要が堅調に推移するなか、生産性と解像度を向上させたマルチレンズシステム搭載の新製品「FX-67S」などを拡販しました。

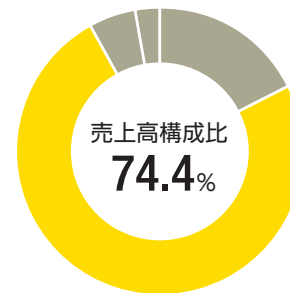
また、事業全体を通じて工期短縮やコスト削減など収益構造改善に継続的に取り組みました。

しかしながら、市況悪化の影響を受け、当事業の売上高は1,790億13百万円、前期比27.9%の減少となり、営業利益は130億90百万円、前期比69.4%の減少となりました。



主要製品

- 半導体露光装置
- 液晶露光装置



映像事業

プロ仕様から初心者向けまでラインナップを取り揃えたレンズ交換式デジタルカメラや交換レンズ、高性能で使いやすいコンパクトデジタルカメラなどの映像関連商品や、その周辺領域の商品・サービスを提供しています。

当期の概況

当事業関連市況のうち、レンズ交換式デジタルカメラ市場は引き続き堅調に拡大しましたが、第3四半期半ばから市場環境が急速に悪化し、また、コンパクトデジタルカメラ市場はさらに縮小しました。

このような状況の下、レンズ交換式デジタルカメラのうちデジタル一眼レフカメラでは、「D800」などの既存製品が順調に販売を伸ばしました。また、タイの洪水へのリスク対策として製品在庫を一時的に増やしていたこともあり、第3四半期半ばから市況の悪化に伴って特にエントリー機の価格の下落を余儀なくされましたが、在庫の削減を進め、当期末においては計画どおりの在庫水準とすることができました。レンズ交換式アドバンスカメラ「Nikon 1」は特に北米・欧州で高いシェアを獲得しており、当シリーズのブランド認知が進行しました。

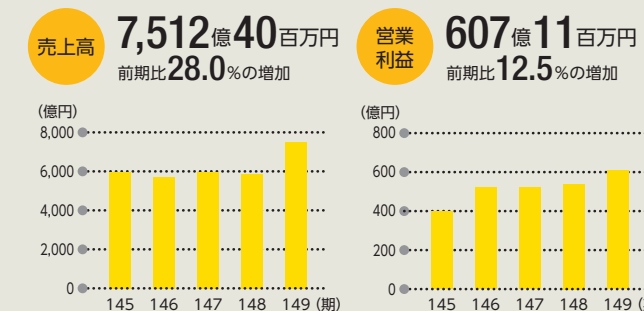
コンパクトデジタルカメラは、特長ある製品群を市場に投入し拡販に努めた結果、市場が縮小するなかで、各地域でトップクラスのシェアを獲得しました。

交換レンズは、「NIKKOR」レンズの発売80周年を迎えるなか、レンズ交換式デジタルカメラの販売増に伴い好調に推移し、昨年11月には累計生産数が7,500万本を達成しました。

また、本年3月に、デジタル一眼レフカメラのミドルクラス機「D7100」、ニコンDXフォーマットセンサーを搭載したコンパクトデジタルカメラ「COOLPIX A」をそれぞれ発売するなど、競争力のある製品を積極的に投入しました。

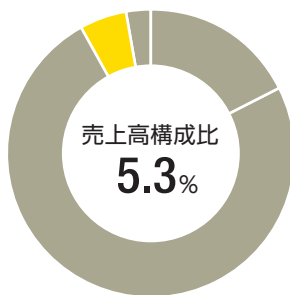
さらに、本年2月にインドネシアにおいて販売子会社による営業を開始したほか、本年3月にラオスに新工場を設立するなど、販売・生産体制の強化・拡充を図りました。

これらの結果、当事業の売上高は7,512億40百万円、前期比28.0%の増加となり、営業利益は607億11百万円、前期比12.5%の増加となりました。



主要製品

- レンズ交換式デジタルカメラ
- コンパクトデジタルカメラ
- 交換レンズ
- フィルムカメラ
- 望遠鏡



インストルメンツ事業

バイオテクノロジー研究を支える生物顕微鏡などを扱うバイオサイエンス事業と、精密機械部品や半導体関連などで使用される工業用顕微鏡、測定機、半導体検査装置を扱う産業機器事業から成り、最新のデジタル技術と伝統の光学技術を融合した商品・サービスを提供しています。

当期の概況

当事業関連市況のうち、バイオサイエンス関連市況は先進国を中心とした公共予算の縮小・執行遅延の影響により厳しい環境となりました。また、産業機器関連市況は、スマートフォン・タブレット型端末及び自動車関連の設備投資が堅調でしたが、半導体・電子部品関連は企業の設備投資抑制の影響を受け、低調に推移しました。

このような状況の下、バイオサイエンス事業では細胞研究用の顕微鏡を中心に販売を伸ばし主に海外におけるシェアを拡大しましたが、システム関連商品の価格競争激化による影響を受けました。また、IPS細胞の培養・観察にも用いられる「BioStation」の拡販にも努めました。

産業機器事業では工業用顕微鏡「ECLIPSE LV-Nシリーズ」などの新製品を発売したほか、非接触三次元測定機などの拡販に努めました。

また、事業全体を通じてコスト削減や工期短縮などによる収益構造の改善を進めました。

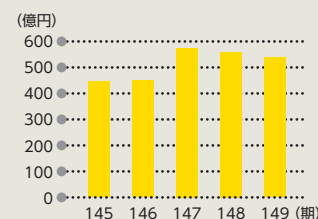
これらの結果、当事業の売上高は538億77百万円、前期比3.8%の減少となり、営業損失は49億77百万円（前期は31億66百万円の営業損失）となりました。



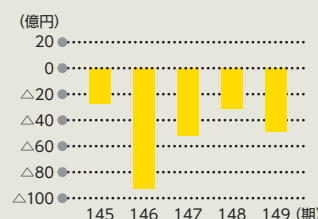
ECLIPSE LV-N

BioStation CT

売上高 **538億77百万円**
前期比**3.8%**の減少

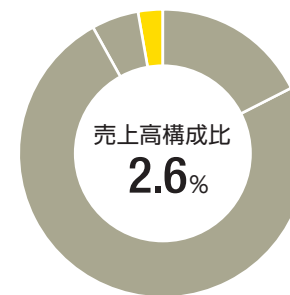


営業利益 **△49億77百万円**
前期は△31億66百万円



主要製品

- 生物顕微鏡
- 工業用顕微鏡
- 測定機
- 半導体検査装置



その他の事業

宇宙関連製品をはじめとする特注機器を扱うカスタムプロダクツ事業、最先端の液晶ディスプレイ用パネルを製造するために欠かせない液晶フォトマスク基板などを扱うガラス事業などがあります。

当期の概況

カスタムプロダクツ事業は宇宙関連製品が大きく売上げを伸ばし、ガラス事業は市況が厳しいなか、液晶フォトマスク基板や光学部品の拡販に努めました。

この結果、これらの事業の売上高は263億63百万円、前期比3.7%の減少となり、営業利益は35億55百万円、前期比14.9%の減少となりました。

売上高 **263億63百万円**
前期比**3.7%**の減少

営業利益 **35億55百万円**
前期比**14.9%**の減少

製品

- 特注機器
- 液晶フォトマスク基板

(注) 事業別の営業損益には、当社グループ内取引において生じた損益を含んでおります。

ホームページのご案内

HP <http://www.nikon.co.jp>

● 投資家情報



● 企業情報



● 製品・サポート



当社ホームページでは、企業情報や財務情報、事業活動や製品情報などをはじめとする様々な情報を掲載しております。当社をよりご理解いただくためにも是非ご覧ください。

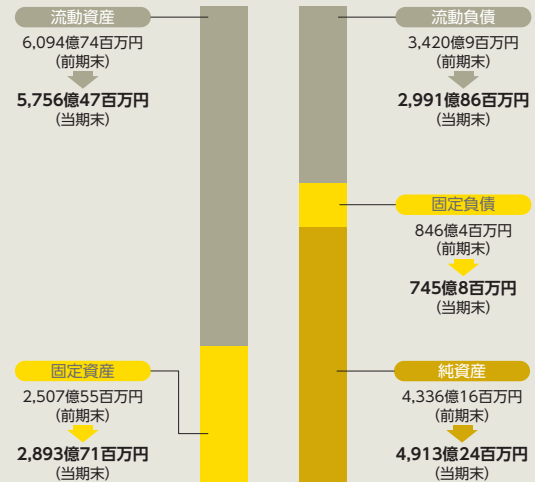
連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期末 平成25年3月31日現在	前期末 平成24年3月31日現在
資産の部		
流動資産	575,647	609,474
固定資産	289,371	250,755
有形固定資産	161,605	130,943
無形固定資産	32,270	33,085
投資その他の資産	95,496	86,727
資産合計	865,019	860,230
負債の部		
流動負債	299,186	342,009
固定負債	74,508	84,604
負債合計	373,695	426,613
純資産の部		
株主資本	479,076	453,017
資本金	65,475	65,475
資本剰余金	80,711	80,711
利益剰余金	345,692	319,823
自己株式	△12,804	△12,992
その他の包括利益累計額	11,452	△20,005
その他有価証券評価差額金	9,482	3,061
繰延ヘッジ損益	△216	△1,592
為替換算調整勘定	2,187	△21,474
新株予約権	795	604
純資産合計	491,324	433,616
負債純資産合計	865,019	860,230

総資産の構成

総資産 8,650億19百万円



連結貸借対照表のPOINT

- 総資産
当連結会計年度末における流動資産の残高は、主に、現金及び預金が減少したため、338億26百万円減少しました。
また、固定資産の残高は、平成23年10月に発生したタイ国の洪水に伴う被害により新規に代替設備を購入したこと等により、386億15百万円増加しました。
- 負債
当連結会計年度末における流動負債の残高は、主に、仕入債務、及び未払法人税等が減少し、並びに代替設備の購入に係る決済が進み未払金が減少したため、428億22百万円減少しました。
また、固定負債の残高は、主に、その他に含まれる取用関係仮受金を流動負債へ振り替えたことにより、100億95百万円減少しました。
- 純資産
当連結会計年度末における純資産の残高は、主に、当期純利益424億59百万円を計上したことにより利益剰余金が増加したため、577億7百万円増加しました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期 自平成24年4月1日 至平成25年3月31日	前期 自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高	1,010,493	918,651
売上原価	663,509	567,000
売上総利益	346,984	351,651
販売費及び一般管理費	295,982	271,570
営業利益	51,001	80,080
営業外収益	7,849	11,917
営業外費用	10,506	2,614
経常利益	48,344	89,383
特別利益	14,299	16,144
特別損失	788	19,360
税金等調整前当期純利益	61,856	86,168
法人税、住民税及び事業税	12,081	26,627
法人税等調整額	7,316	235
少数株主損益調整前当期純利益	42,459	59,305
当期純利益	42,459	59,305

連結包括利益計算書

(単位:百万円)

科目	当期 自平成24年4月1日 至平成25年3月31日	前期 自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
少数株主損益調整前当期純利益	42,459	59,305
その他の包括利益	31,458	△3,557
その他有価証券評価差額金	6,414	△1,398
繰延ヘッジ損益	1,376	△895
為替換算調整勘定	23,661	△1,272
持分法適用会社に対する持分相当額	6	9
包括利益	73,917	55,748
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	73,917	55,748

連結キャッシュ・フロー計算書

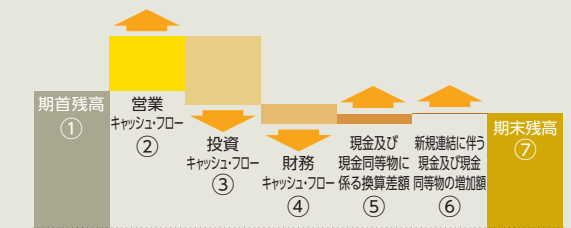
(単位:百万円)

科目	当期 自平成24年4月1日 至平成25年3月31日	前期 自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	② 51,890	15,073
投資活動によるキャッシュ・フロー	③ △65,109	△49,144
財務活動によるキャッシュ・フロー	④ △18,198	△15,150
現金及び現金同等物に係る換算差額	⑤ 9,370	△665
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△22,046	△49,886
現金及び現金同等物の期首残高	① 131,711	181,061
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	⑥ 429	536
現金及び現金同等物の期末残高	⑦ 110,094	131,711

連結キャッシュ・フロー計算書のPOINT

- 営業活動によるキャッシュ・フロー：②
主に仕入債務の減少358億20百万円及び法人税等の支払302億83百万円があったものの、税金等調整前当期純利益の計上618億56百万円、売上債権の減少197億90百万円、たな卸資産の減少120億81百万円、及び未収入金の減少170億67百万円等により518億90百万円の収入となりました。
- 投資活動によるキャッシュ・フロー：③
主に有形固定資産の取得による支出618億55百万円により、651億9百万円の支出となりました。
- 財務活動によるキャッシュ・フロー：④
主に配当金の支払158億41百万円により、181億98百万円の支出となりました。

キャッシュ・フローの推移



NEWS 「TIPA アワード 2013」で4製品が受賞



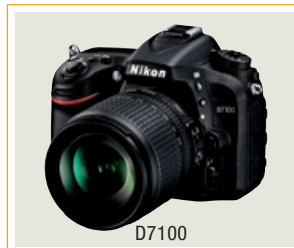
権威ある写真・映像関連の賞「TIPA アワード 2013」において、4製品が受賞しました。

「D7100」は高精度なAF撮影や高速連続撮影が可能であり、装着レンズの約2倍の焦点距離相当の撮影画角での撮影ができる点などが評価されました。

「COOLPIX S01」は重さが約96g、極小サイズでありながらも、有効画素数1,014万画素、光学3倍ズームのNIKKORレンズや多彩な撮影モード、画像編集機能を搭載している点などが受賞理由として挙げられました。

「COOLPIX P520」は光学42倍ズームで広角24mm相当から超望遠1,000mm相当の広い撮影画角をカバー、フルHD動画や高感度撮影にも対応し、3.2型バリアングル液晶モニターを搭載している点などが評価されました。

「1 NIKKOR 11-27.5mm f/3.5-5.6」はズーム全域で撮像面から0.3mの最短撮影距離を可能にしているほか、沈胴機構を採用し、携帯性が高い点などが評価されました。



D7100



COOLPIX S01



1 NIKKOR 11-27.5mm f/3.5-5.6



COOLPIX P520

NEWS 「NIKKOR」発売 80周年



ニコンの写真用レンズ「NIKKOR(ニッコール)」は、今年で発売から80周年を迎えました。1933年に航空写真用レンズを「Aero-Nikkor(エアロニッコール)」の名で販売したことから始まり、「NIKKOR」は常に時代の最先端の光学技術が組み込まれた高性能レンズのブランドに成長しました。1959年に「ニコンF」と同時に、ニコン一眼レフカメラ用「NIKKOR」レンズとして初となる「NIKKOR-S Auto 5cm f/2」を発売しました。「NIKKOR」は、レンズ交換式カメラ用レンズとして累計8,000万本以上を生産、現在80種類以上のラインナップを揃え、エントリー層からプロの写真家まで幅広いお客様に愛用されています。

NEWS 第17回「IR優良企業賞」(2012年度)を受賞

一般社団法人 日本IR協議会が主催する「IR優良企業賞」(2012年度)を受賞しました。この賞は、IRの趣旨を深く理解し、積極的に取り組み、市場関係者の高い支持を得るなどの成果をあげた企業を表彰するものです。今回の受賞は、IR部門の対応が優れ、情報開示を進めている点をはじめ、説明会に必ず事業部門のトップが参加している点、タイ洪水の際は影響を定量的に把握し、かつ開示したスケジュールに沿って復旧が進められた点などが高く評価されました。ニコンでは、今後も経営姿勢や事業活動、製品及び技術情報などを広く提供することで、株主・投資家の皆様のニコンへの理解を一層深めていただく活動を推進していきます。

新製品 ArF液浸スキャナー NSR-S622D

「NSR-S622D」は、20ナノメートル以下のプロセス量産用に開発された半導体露光装置です。「NSR-S621D」の毎時200枚以上の高い生産性を維持しつつ、投影レンズ性能の向上とオートフォーカス機構の改良により、装置間重ね合わせ精度を3.5ナノメートル以下に大幅に向上させ、極めて高い精度を実現しました。安定的量産で最先端デバイス生産のニーズにお応えします。



NSR-S622D

新製品 デジタル一眼レフカメラ D7100 | コンパクトデジタルカメラ COOLPIX A

「D7100」は、有効画素数2,410万画素、ニコンDXフォーマットCMOSセンサーと高性能画像処理エンジン「EXPEED 3」を搭載したデジタル一眼レフカメラです。

光学ローパスフィルターレス仕様で、高画素ならではの解像力とNIKKORレンズのシャープな描写力を最大限に活かします。また、高密度51点AFシステムで被写体の的確な捕捉・追尾を実現し、クロップモードによってより被写体を引き寄せた撮影も可能です。

「COOLPIX A」は、COOLPIX初のニコンDXフォーマットCMOSセンサーを搭載したコンパクトデジタルカメラです。有効画素数1,616万画素、18.5mm f/2.8 NIKKORレンズ(撮影画角は35mm判換算で28mmに相当)の搭載などにより、デジタル一眼レフカメラと同等の描写力とコンパクトデジタルカメラの携帯性を両立しました。



D7100



COOLPIX A

新製品 CNC画像測定システム NEXIV VMZ-R4540

「NEXIV VMZ-R4540」は、光学測定技術と画像処理技術を用いて精密機器・電子部品等の寸法や形状を自動測定する装置です。ニコン独自開発の高精度リニアエンコーダにより高精度な測定を可能にし、画像転送技術の改良や照明の光源変更を行うことで測定時間の短縮を実現しています。さらに、透明体への対応や複雑な形状をしたエッジ検出などの技術も向上しました。



NEXIV VMZ-R4540

会社概要 (平成25年3月31日現在)

社名(英文社名) 株式会社ニコン(NIKON CORPORATION)
 本店所在地 〒100-8331 東京都千代田区有楽町1-12-1(新有楽町ビル)
 TEL (03) 3214-5311
 設立年月日 大正6年(1917年)7月25日
 資本金 654億75百万円
 従業員数 単体 6,707名/連結 24,047名

役員及び執行役員 (平成25年6月27日現在)

1. 取締役及び監査役 ※印は代表取締役を表しております。
 取締役社長 木村 眞琴[※]
 取締役 伊藤 純一[※] 牛田 一雄[※] 正井 俊之 岡本 恭幸
 橋爪 規夫 大木 裕史 金澤 健一 松尾 憲治
 樋口 公啓
 常勤監査役 河合 芳道 長井 良幸
 監査役 可児 晋 上原 治也 畑口 紘

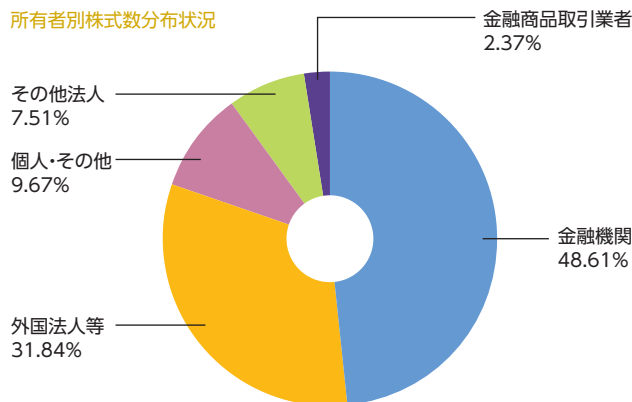
2. 執行役員
 社長執行役員 木村 眞琴
 副社長執行役員 兼 CFO 伊藤 純一
 副社長執行役員 牛田 一雄
 常務執行役員 正井 俊之 岡本 恭幸 橋爪 規夫 川端 邦雄
 大木 裕史 本田 隆晴 金澤 健一 馬立 稔和
 小坂 庸雄 浜田 智秀
 執行役員 風見 一之 今 常嘉 御給 伸好 中島 正夫
 下田 治 岩岡 徹 吉川 健二 中村 温巳
 小田島 貞 長塚 淳

事業所 (平成25年3月31日現在)

本社 〒100-8331 東京都千代田区有楽町1-12-1(新有楽町ビル)
 大井製作所 〒140-8601 東京都品川区西大井1-6-3
 横浜製作所 〒244-8533 神奈川県横浜市栄区長尾台471
 相模原製作所 〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台1-10-1
 熊谷製作所 〒360-8559 埼玉県熊谷市御稜威ヶ原201-9
 水戸製作所 〒310-0843 茨城県水戸市元石川町276-6
 横須賀製作所 〒239-0832 神奈川県横須賀市神明町1-15

株式の状況 (平成25年3月31日現在)

■発行済株式総数 400,878,921株 (比率は小数点以下第3位を四捨五入)
 ■株主数 34,350名



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	29,054	7.33
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	28,474	7.18
ジェーピー モルガン チェース バンク 380055	25,603	6.46
明治安田生命保険相互会社	20,565	5.19
ステート ストリート バンク アンドトラスト カンパニー	18,348	4.63
東京海上日動火災保険株式会社	8,054	2.03
日本生命保険相互会社	7,893	1.99
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLIENTS	7,389	1.86
株式会社三菱東京UFJ銀行	7,378	1.86
株式会社常陽銀行	6,801	1.71

(注)持株比率は自己株式数(4,279,760株)を控除して計算しております。

本報告書は、注記のない限り、次により記載しております。
 1. 記載金額及び株式数は、表示単位未満の端数を切捨て
 2. 比率は、小数点以下第2位を四捨五入

株式に関するお手続きについて

■証券会社等の口座に記録された株式

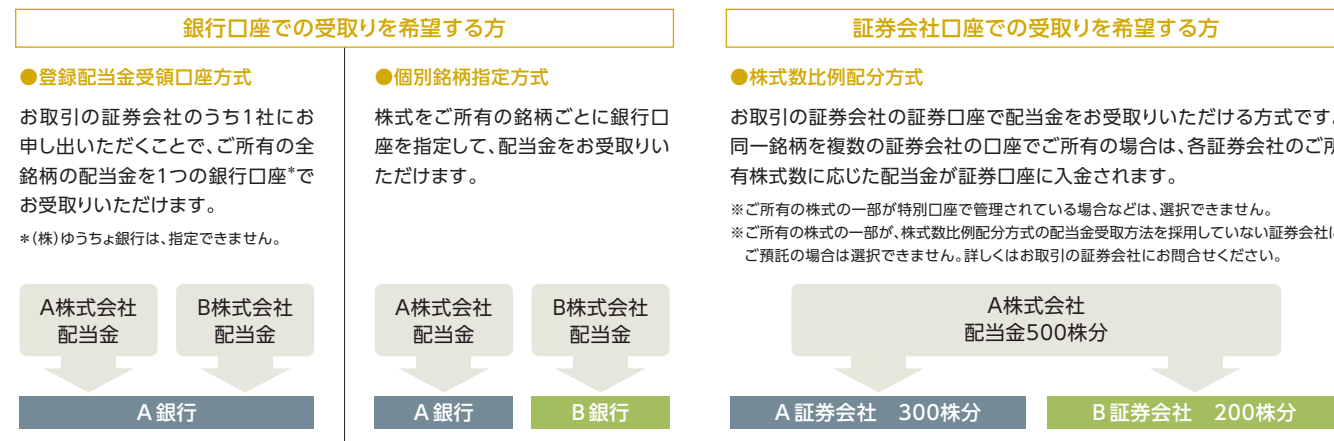
お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先
◎郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ◎支払期間経過後の配当金に関するご照会 ◎株式事務に関する一般的なお問合せ	裏表紙の「株主メモ」記載の三菱UFJ信託銀行 証券代行部へお問合せください。
◎上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

■特別口座に記録された株式*

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先				
◎特別口座から一般口座への振替請求 ◎単元未満株式の買取(買増)請求 ◎住所・氏名等のご変更 ◎特別口座の残高照会 ◎株式事務に関する一般的なお問合せ	裏表紙の「株主メモ」記載の三菱UFJ信託銀行 証券代行部へお問合せください。 なお、お手続き書類につきましては、以下の方法でもご請求いただけます。				
	<table border="1"> <tr> <td>手続書類のご請求方法</td> <td>音声自動応答電話によるご請求 …… 0120-244-479(通話料無料)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>インターネットによるダウンロード …… http://www.tr.mufg.jp/daikou/</td> </tr> </table>	手続書類のご請求方法	音声自動応答電話によるご請求 …… 0120-244-479(通話料無料)		インターネットによるダウンロード …… http://www.tr.mufg.jp/daikou/
手続書類のご請求方法	音声自動応答電話によるご請求 …… 0120-244-479(通話料無料)				
	インターネットによるダウンロード …… http://www.tr.mufg.jp/daikou/				

*株券電子化制度の施行時までに証券保管振替機構(ほふり)に預託されず、その後特のお手続きをされていない株式は、法令に基づき当社が開設している特別口座に記録されています。特別口座は証券市場での売買を行うことができないなどの制約があります。ご所有の株式が特別口座に記録されている株主様は、裏表紙の「株主メモ」記載の三菱UFJ信託銀行 証券代行部にお問合せのうえ、お早めに証券会社等の口座にお振替いただきますようお願い申し上げます。特に、株券電子化施行日に当時の単元未満株式(1株~999株)を所有されていた株主様、お手元に当社株券がある株主様は特別口座が開設されている可能性がありますのでご確認ください。

配当金の口座受取り制度のご案内



お手続き・お問合せ先 配当金の口座受取りに関するご相談は、お取引の証券会社等(口座管理機関)にお申し出ください。

『復興特別所得税』に関するご案内

上場株式等の配当等に係る所得税に対し、平成25年1月1日から平成49年12月31日まで、復興特別所得税として**所得税額×2.1%**が追加課税されます。

〔東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法(平成23年法律第117号)〕の施行に伴い、平成25年1月1日以降に支払われる上場株式等の配当等に係る所得税に対し、下記のとおり追加課税されますので、ご案内いたします。

※証券税制における軽減税率の適用終了による税率の変更です。

	平成24年12月31日以前	平成25年 1月 1日から 平成25年12月31日まで	平成26年 1月 1日から 平成49年12月31日まで	平成50年1月1日以降
所 得 税	7%	7%	15%*	15%
復興特別所得税	—	<u>0.147%</u>	<u>0.315%</u>	—
住 民 税	3%	3%	5%*	5%
合 計	10%	10.147%	20.315%	20%

- 源泉徴収が行われる場合の税率です。ただし、内国法人の場合は住民税が徴収されません。
- 本ご案内の内容が当てはまらない場合もございます。詳細につきましては、最寄の税務署、税理士等にお問合せください。

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

期末配当金
受領株主確定日 3月31日

中間配当金
受領株主確定日 9月30日

定時株主総会 毎年6月

単元株式の数 100株

公告の方法

電子公告により行います。
ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL <http://www.nikon.co.jp/ir/bp/index.htm>

株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)
三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。



株式会社 **ニコン**

〒100-8331 東京都千代田区有楽町1-12-1 (新有楽町ビル)
<http://www.nikon.co.jp>

UD FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

